政党支持と「無党派」

(c) 2020 by Yoshitaka Nishizawa

決定要因
（説明変数）
（独立変数）

複合モデル

説明したいこと
（被説明変数）
（従属変数）

X1
政策評価

選挙制度 X2
政党支持態度 X3
X4
・
・

Y

選挙結果
（政権交代）
政治参加

政党支持態度とは

- 政党に対する心理的な「近さ」についての政治的態度
  - 「有権者が特定の政党を支持しているという意識」（田中愛治、現代日本政治小事典 2003年版、p.14-政党支持）
  - 「特定の政党に対するひいき、愛着の態度」（川人貞史、現代政治学事典 1991、p. 603-争点指向型投票者）

政党支持態度の帰納的な解釈
- ①投票以上のコミットメントを必要とする行動、②現在の態度、③中長期的な態度という3次元から構成（谷口将紀 2012. 『政党支持の理論』p. 7）

- 党派性-partisanship
  - 政党帰属意識-party identification
  - 政党支持-party support

- 政党支持とは

- 質問文：「選挙のことは別にして、ふだんあなたは何党を支持していますか」
  - 次の選挙で、そこに投票するかどうかは別にして、自分にとって、つねづね「近い」と感じている政党
  - 「態度」要因

「歩留まり率」

政党支持・投票意図政党・実際の投票の関係

- PID（政党帰属意識）とは
- Q. Generally speaking, do you usually think of yourself as a Republican, a Democrat, an Independent, or what?

1. 有権者のほとんどがもつ、政党に対する帰属意識
2. 家庭内の社会化により形成される
3. 帰属意識は安定的で、生涯、変わることはあまり

「政党支持」の疑問点（1）

- 「投票」という「支持」との区別が難しい

「選挙のことは別にして、ふだんあなたは何党を支持していますか」

ところが・・・
選挙が近づくと、
「支持」＝「投票する」

政党支持態度と政党帰属意識

	政党帰属意識	政党支持
・ほとんどの人	○	△
・帰属意識	○	×
・家庭内社会化	○	△
・安定的	○	△

政党支持態度と政党帰属意識

●世代間の安定性、低い。初期社会化の影響は認められるが、成人後の社会化の方が優越 三宅 1998, p.5, l.5, 三宅 1985

●日本人は支持政党をよく変える。ただし、別の党へではなく、「ある政党支持」と「支持なし」の間の往復

三宅 1998, p.4, l.27

●政党帰属意識とは、厳密には異なるが、共通点も多く、政治意識の中でも最も重要

三宅 1985, p.3, l.20

「政党支持」の疑問点（2）

- 「無党派（支持なし）」が増加すると、「支持政党」を基準に投票を決められないとが増える
- その人たちは、どのように投票政党を選んでいるのか？

「無党派」とは

- 党派性を持たない人
- 支持政党を答えない人
  - 政党名（ラベル/ブランド）で投票を決めない人
  - 政策評価・候補者評価をより重点をおく人（？）
  - マスメディアの論調によっては、人気投票的な投票もありえる

参考文献

谷口将紀　2012. 『政党支持の理論』岩波書店.

西澤由隆1998.　「選挙研究における『政党支持』の現状と課題」『日本選挙学会年報　選挙研究』第13号。

三宅一郎 1989.『投票行動』東大出版会,　3 章.